

SSRI

ちよつと一言

Give me a break !

なぜ米陸軍防空砲兵旅団司令部を相模原に

藤岡 智和

米陸軍が 10 月 31 日に第 38 防空砲兵旅団を現役復帰させ、115 名からなる司令部を相模総合補給廠に置いて、PAC-3 を装備する嘉手納に駐留する第 1 防空連隊第 1 大隊と、TPY-2 レーダを装備する車力の第 10 及び経ヶ崎の第 14 BMD 中隊とグアムの THAAD 中隊を隷下に入れた。

これらの隷下部隊とは衛星を経由したネットワークで結ばれることから旅団司令部は THAAD 中隊のいるグアムでも、上級部隊である第 94 防空軍司令部の所在するハワイでも良いはずなのに、なぜ北朝鮮の Scud-ER や No Dong などミサイル多数の射程圏内である相模原に、しかも旅団司令部を防護する PAC-3 や THAAD の部隊も伴わずに配置されたのであろうか。軍事常識的には考えにくい。

わざわざ司令部を日本に置いた可能性の一つとして自衛隊の BMD 部隊を米陸軍の統制下に置こうとする意図が考えられる。

自衛隊は空自が PAC-3、海自が SM-3、陸自が近く Aegis Ashore を配備するが、それらの統一した指揮統制機能を持っていない。また BMD には欠かせない早期警戒衛星からの情報を米軍に頼っている。このような背景から第 38 防空砲兵旅団は米軍の BMD 部隊と併せて自衛隊の BMD 部隊もその統制下に置こうとしているのではないか。そうすれば米陸軍は空自の FPS-5 レーダや海自の SPY-1 レーダ、更に将来は陸自の Aegis Ashore の LMSSR レーダの取得した情報を手に入れて BMD 戦闘を実施できるようになる。その場合旅団司令部がハワイやグアムにあったのでは自衛隊の諸部隊と直結するのには政治的にも問題が多く、軍事常識を破っても日本国内に旅団司令部を置く必要があるのではないか。

日米の BMD 情報共有は決して悪いわけではないが、今後韓国との情報共有などの問題が起こった場合に我が国の主体性が損なわれる危険があり得る。そのために日本としては米陸軍の SMDC (Space and Missile Defense Command)などを参考に、陸海空クロスドメインの統合 BMD 指揮情報組織を創設して米旅団司令部のカウンターパートとする必要があるのではないか。

(2018 年 11 月 25 日)